

介護保険法の改悪は許さない。

退職者連合の仲間と国会傍聴行動を実施

政府は12日の衆議院厚生労働委員会で、「介護保険法改正案」の強行採決をした。本格的な論戦が始まったばかりだ。シニアクラブは本部役員を中心に退職者連合の仲間と共に4月5・7日に亘って厚生労働委員会傍聴行動に参加したが、介護は命と暮らしに関わる重要な問題である。参議院では腰を据えた審議をするよう国会動向に注目しましょう。

4月5日の傍聴行動は、9時30分に衆議院議員面会所で集会を開催し参加者の意思統一を図った。民進党厚生労働筆頭理事の柚木道義議員が「介護はすべての人に関わる課題、社会全体で支えていける制度にしなければならない。傍聴席から心の中で激励の拍手をお願いします」と委員会に臨む決意を述べた。それを受け、退職者連合の阿部保吉会長は「民進党の対案を実現するためには全員が被保険者になって財政を確立し制度も格差をなくすことこれが我々の要求だ。制度を崩壊させないために連携して頑張っていこう」と檄を飛ばし、連合の平川総合局長からも激励の挨拶がされた。その後、退職者連合30名と連合10名の全員が所持品チェック後、衆議院第16委員会室へと移動し傍聴行動に入った。傍聴席は立ち見の人がいるほどの注目度と警備に厳しさを感じた。

委員会では民進党から阿部知子・大西健介・中島克仁・長妻昭・郡和子・岡本充功委員の6名が質問に立った。各委員は、15年に2割に上がった自己負担の影響を、「厚労省は影響ないというが利用者の声は違う。貯蓄の取崩しや利用を減らし他の支出を切り詰めている実態など検証・分析をして検討すべき」や「介護を受け給与収入があるとはどのような人か」「税制と医療介護負担の狭間の人への対応策を検討すべきだ」さらに、介護人材確保事業業、職場定着支援金の周知や施策の不備・杜撰さにも鋭く切り込んだ。傍聴後、阿部会長は「6議員は厳しく追及しいくつかの修正も実現した」と総括した。